

新興国レポート

# アジア新興国経済 成長拡大

## 旺盛な消費・堅調な民間投資が成長を支える

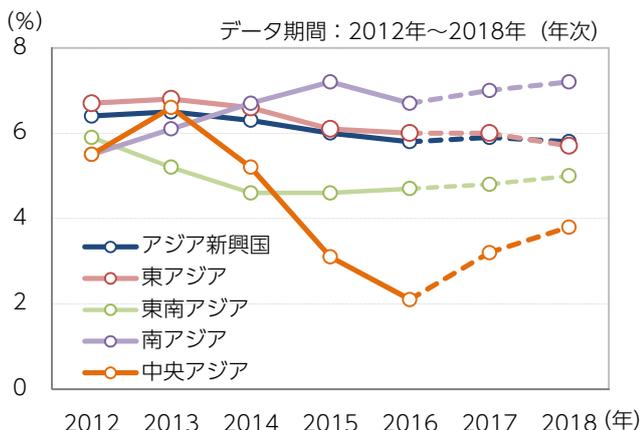
- ADBは、2017年のアジア新興国のGDP成長率見通しを4月公表の5.7%から5.9%に引き上げ。
- 好調な消費などを背景に中国経済が4月見通しよりも拡大していることなどが主因か。
- 今回の成長率の見直しは、アジア新興国の成長鈍化に歯止めがかかる状況を示しているとみられる。

アジア開発銀行（ADB）は7月20日、2017年のアジア新興国の国内総生産（GDP）成長率見通しを4月公表の5.7%から5.9%に引き上げました。好調な消費などを背景に中国経済が4月見通しよりも拡大していることなどが主因となり、2018年の成長率予想も5.7%から5.8%に変更しました（図表1）。

- ✓ 東アジアの成長率見通しは、2017年が5.8%から6.0%へ、2018年が5.6%から5.7%にそれぞれ修正された。中国は、経済成長の減速後、純輸出と国内消費が伸びているとして、2017年が6.7%、2018年が6.4%と4月公表より各々0.2ポイント引き上げられた。
- ✓ 東南アジアについては、マレーシア、フィリピンおよびシンガポールの相対的に順調な経済成長により（図表2）、2017年の4.8%、2018年の5.0%という見通しは達成されるとして据え置かれた。堅調な国内需要、とりわけ民間消費と投資が、引き続き東南アジア地域の成長を支えると予測した。
- ✓ 南アジアはアジア太平洋地域において最も急速な成長を続ける地域であり、2017年は7.0%、2018年は7.2%と4月公表の見通しを維持した。最大の経済大国であるインドは、旺盛な消費を主因として、2017年は7.4%、2018年は7.6%の成長を達成する見込み。
- ✓ 中央アジア諸国の経済見通しは、一部の国において力強い国内需要と輸出の後押しによる経済回復が期待されることから、2017年は3.1%から3.2%へ、2018年は3.5%から3.8%へ、当初の予想を上回る成長が見込まれるとした。

アジア新興国の成長率は不安定な世界経済などを背景に、直近のピークの2013年から3年連続で低下となりました。今回の成長率の見直しは成長鈍化に歯止めがかかる状況を示しているとみられています。

図表1：アジア新興国は6%程度の成長が続く見通し

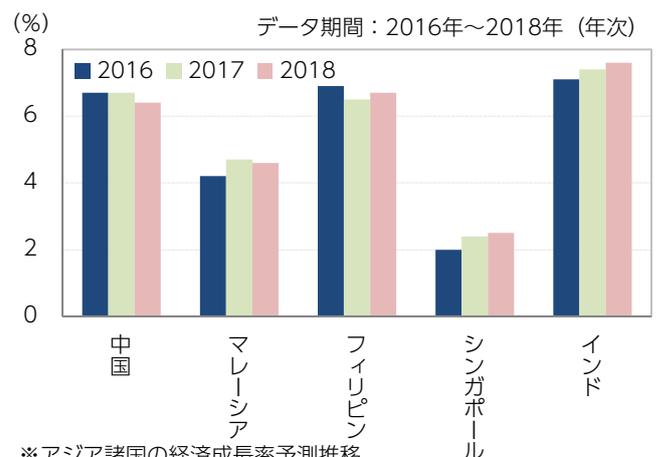


※アジア地域の経済成長率予測推移

※2017、2018年はアジア開発銀行の予測値

出所：図表1、2はアジア開発銀行のデータを基にニッセイアセットマネジメントが作成

図表2：堅調な内需が各国経済をけん引



※アジア諸国の経済成長率予測推移